

# がん患者・家族の生成 AI 利用状況に関する調査報告

## ■発表のポイント

- 生成 AI の利用率は、がん患者本人 6.7%、家族 7.5%
- 生成 AI の役割では、「情報を分かりやすく説明・要約・比較検討してくれる」が最も高く 62.4%
- 生成 AI の情報に誤りがあると感じたことがあるがん患者は 66.2%
- 生成 AI の利用によるポジティブな影響を受けた人は 7 割
- がん患者本人の診断後の期間が短いほど生成 AI の利用率が高い傾向

## ■調査の背景

近年、生成 AI の利用が急速に拡大している。2025 年度の総務省「情報通信白書」によると、2024 年度の調査で「生成 AI を使っている（過去に使ったことがある）」と回答した人の割合は 26.7%と、前年度の 9.1%から大きく増加した。一方、現状では生成 AI には誤情報や情報の偏りといった課題があり、こうした特性を認識せずに病状に関する悩み相談などで生成 AI を利用するがん患者・家族が少なからずいることが、弊会の無料電話相談「がん相談ホットライン」に寄せられた声からうかがえた。

そこで協会は、がん患者・家族の生成 AI の利用実態を明らかにし、正しい認識のもとで適切に生成 AI を利用したり、信頼できる情報源・相談先へのアクセスを支援したりすることを目的に、本調査を実施した。

## ■調査の概要

公益財団法人日本対がん協会（垣添忠生会長）は、2026 年 3 月 23～26 日に全国の 15～89 歳のがん患者や家族約 1 万人にインターネットを通じて、調査を行った。そのなかで直近 1 年以内になん治療を受けている患者と家族で、AI を利用している対象者計 427 人には、質問を追加して利用方法を調べた。

## ■調査の主な内容

### 各情報源の年代別の認知率と利用状況

生成 AI の利用率は、がん患者本人で 6.7%、家族で 7.5% という結果となり、30 代で最も高い結果となった。生成 AI の認知率は、生成 AI の認知率は本人が 36.7%、家族が 44.6% で、60 代以下で高かった。医療従事者への相談は本人が 47%、家族が 42%、インターネットサイトが 30% 程度と高かった。

### がん患者・家族はどのような情報源・相談機関を認知しているか

	n=	インターネット・SNSなど		医療機関や公的支援窓口など		その他		この中にはない知っている
		生成 AI など	SNS など	がん相談窓口	医師・薬剤師・看護師、管理栄養士	国立がん研究センター	患者向け医療ガイド	
がん患者本人	3918	36.7	46.1	33.6	33.8	17.0	19.9	25.8
20-29歳	15	26.7	33.3	20.0	33.3	13.3	13.3	20.0
30-39歳	43	37.2	51.2	46.5	32.6	18.6	37.2	14.0
40-49歳	312	55.4	63.8	46.2	36.5	23.1	31.4	12.8
50-59歳	905	45.5	57.2	42.8	38.0	23.6	29.8	18.2
60-69歳	1330	37.6	47.0	32.6	34.6	17.4	18.5	24.3
70-79歳	1114	25.7	33.3	25.3	29.4	10.9	11.2	35.8
80歳以上	199	22.6	33.2	23.6	30.2	8.0	10.6	36.7
がん患者家族	3425	44.6	52.0	28.4	31.7	16.5	14.9	24.1
15-19歳	3	100.0	66.7	100.0	100.0	66.7	100.0	0.0
20-29歳	41	63.4	70.7	36.6	36.6	24.4	22.0	4.9
30-39歳	149	68.5	73.8	34.9	43.6	27.5	25.5	12.1
40-49歳	563	53.5	60.7	31.8	33.2	17.9	15.1	18.3
50-59歳	950	48.7	56.7	28.4	30.9	17.4	15.9	23.5
60-69歳	972	41.0	46.9	25.9	29.4	15.7	13.5	25.9
70-79歳	638	32.8	42.5	27.3	31.3	12.5	12.9	29.6
80歳以上	109	23.9	30.3	26.6	32.1	11.0	11.9	35.8

※30s未満のセルは参考値

### がん患者・家族はどのような情報源・相談機関を利用しているか

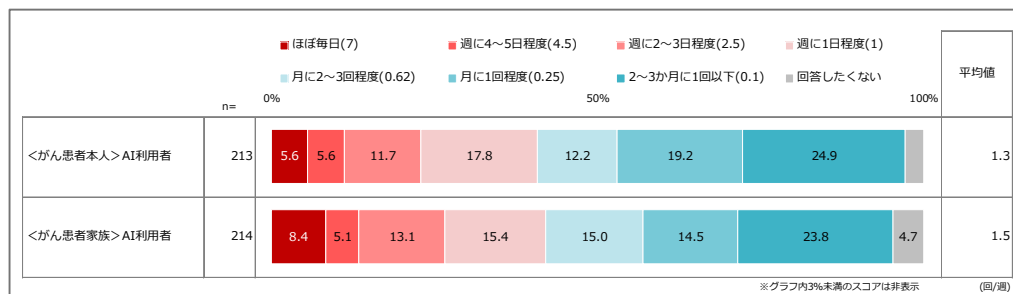
	n=	インターネット・SNSなど				医療機関や公的支援窓口など				その他			この中にはない利用している	回答したくない
		生成 AI など	SNS など	他者のブログ／動画など	上記以外のインターネット	医師・薬剤師・看護師、管理栄養士	がん相談窓口	「がん情報サービス」	国立がん研究センター	患者向け医療ガイド	がん患者会・交流会	周囲の人（友人・家族・親戚）		
がん患者本人	3918	6.7	10.9	18.5	30.5	47.1	6.9	9.5	7.2	2.9	30.2	23.9	1.5	
20-29歳	15	13.3	13.3	20.0	20.0	20.0	0.0	6.7	13.3	0.0	13.3	13.3	6.7	
30-39歳	43	14.0	27.9	23.3	34.9	41.9	25.6	16.3	9.3	11.6	27.9	20.9	0.0	
40-49歳	312	7.4	24.4	29.5	40.7	53.2	11.9	14.7	11.2	4.8	38.5	15.1	2.2	
50-59歳	905	8.2	15.4	29.8	36.5	48.8	10.3	12.2	10.4	4.5	36.1	21.4	1.3	
60-69歳	1330	6.8	8.3	17.2	32.0	45.9	5.9	10.4	7.4	2.7	29.0	23.5	1.3	
70-79歳	1114	5.1	6.9	9.5	23.1	46.5	4.5	5.5	3.9	1.3	25.4	28.0	1.4	
80歳以上	199	4.5	6.0	8.0	19.1	45.2	1.0	5.5	2.5	0.5	27.6	30.2	2.0	
がん患者家族	3425	7.5	10.7	12.8	29.1	42.0	6.2	7.2	6.2	2.2	29.1	29.4	2.2	
15-19歳	3	66.7	66.7	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	
20-29歳	41	9.8	19.5	12.2	26.8	29.3	14.6	12.2	12.2	7.3	24.4	26.8	7.3	
30-39歳	149	11.4	18.1	18.1	32.9	28.9	9.4	13.4	9.4	8.1	28.2	33.6	4.7	
40-49歳	563	10.8	14.0	17.1	35.9	37.5	7.1	9.4	7.5	2.3	32.3	28.6	2.5	
50-59歳	950	8.5	12.7	16.1	31.1	40.3	7.5	7.9	7.3	2.3	33.2	29.3	2.3	
60-69歳	972	6.1	7.8	11.2	28.0	41.7	4.6	5.2	5.6	0.8	25.9	30.5	2.0	
70-79歳	638	4.2	7.2	7.1	23.0	52.2	4.1	5.5	3.9	2.2	25.7	27.9	1.1	
80歳以上	109	5.5	8.3	2.8	17.4	47.7	9.2	5.5	2.8	0.0	30.3	31.2	1.8	

※30s未満のセルは参考値

## 生成 AI の利用頻度

がん患者本人は、「2～3 か月に 1 回以下」が最も高く、24.9%。次いで「月に 1 回程度」19.2%、「週に 1 日程度」17.8%。平均利用回数は 1.3 回/週だった。

がん患者家族でも、「2～3 か月に 1 回以下」が最も高く、23.8%。以下、「週に 1 日程度」「月に 2～3 回程度」「月に 1 回程度」がいずれも 15%程度。平均利用回数は 1.5 回/週だった。



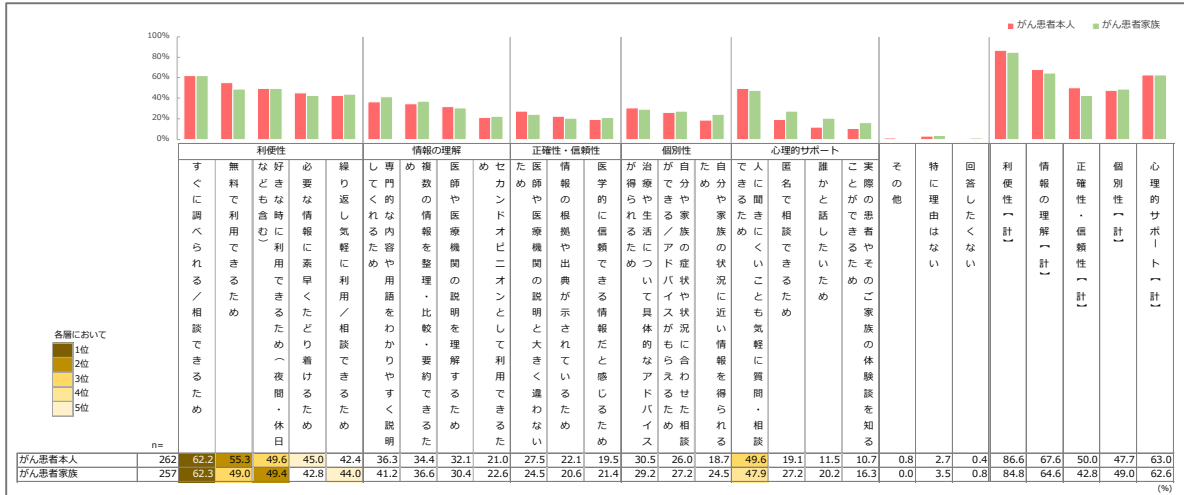
## 生成 AI に相談する内容

がん患者本人は、「がん治療に関する情報」が最も高く、62.9%。次いで「症状・副作用・後遺症のこと」60.6%。がん患者本人は「症状・副作用・後遺症のこと」が家族よりも 8.7 ポイント高くなっている。



## 生成 AI を利用する理由と使わない理由

生成 AI を利用する理由では、がん患者本人では「すぐに調べられる／相談できるため」が最も高く 62.2%。「無料で利用できるため」55.3%、「好きな時に利用できるため」「人に聞きにくいことも気軽に質問・相談できるため」がそれぞれ 49.6%と、上位には利便性に関する理由が並んだ。家族も同様の傾向だった。



一方、生成 AI を利用しない理由としては「医学的に信頼できる情報か不安」「医療機関の説明と異なる情報が含まれる可能性がある」など正確性・信頼性に関する理由が多く上がった。

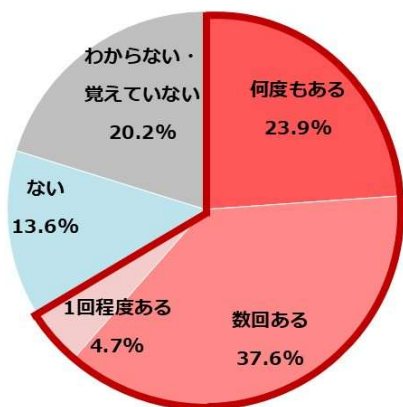
理由	生成AI (ChatGPT・Geminiなど)		SNS (X・Instagram・Facebookなど)		他の患者やその家族の体験談ブログ/動画		生成AI、SNS、体験談ブログ・動画、以外のインターネットサイト		医療従事者 (主治医、主治医以外の医師、看護師、薬剤師、管理栄養士など)		がん相談支援センター (対面/電話)		国立がん研究センター「がん情報サービス」(電子/WEB)		患者向け医療ガイドライン		がん患者会・支援団体が実施する相談・交流会 (対面/電話)		高齢の人 (友人・家族・隣)	
	本人	家族	本人	家族	本人	家族	本人	家族	本人	家族	本人	家族	本人	家族	本人	家族	本人	家族	本人	家族
すぐに調べられない／相談できないため	2.5	2.4	3.5	4.2	5.2	5.8	4.1	4.1	7.4	9.9	10.5	13.3	10.7	12.4	5.5	9.1	9.0	11.6	2.6	3.1
好きな時に利用できないため	2.0	1.6	1.9	1.5	4.7	3.9	2.7	2.1	10.6	13.2	18.9	18.0	9.4	9.5	6.3	8.8	18.5	17.6	3.1	3.3
繰り返して利用できることがためらわれるため	3.2	3.2	2.8	3.0	5.4	5.4	3.6	3.5	10.6	10.2	11.6	13.0	5.9	7.6	7.3	8.8	6.3	8.4	4.9	5.5
必要な情報になかなかたどり着けないため	9.6	7.4	11.3	12.1	9.1	10.3	9.8	10.4	4.6	5.1	4.8	5.2	6.1	8.3	6.8	9.9	5.6	6.2	8.4	7.3
料金がかる／高額なため	3.9	2.8	2.8	2.3	2.5	2.2	2.7	2.7	4.9	7.8	4.6	4.1	4.9	6.4	1.8	4.8	1.2	2.5	0.8	0.7
専門的な内容や用語の説明がわかりにくいと感じるため	5.1	5.5	4.2	5.1	4.5	4.9	5.5	5.5	7.8	8.9	5.7	7.5	9.0	11.7	7.8	10.8	2.6	3.9	3.7	3.0
医師や医療機関の説明の理解に、あまり役立たないと感じるため	4.6	5.0	6.6	6.6	4.9	5.0	5.6	4.5	-	-	3.2	3.9	2.9	3.0	3.6	4.5	3.0	4.8	5.5	5.2
複数の情報を整理・比較・要約することが十分にできないと感じるため	6.4	7.5	8.7	8.4	7.6	8.3	5.8	7.6	6.4	6.4	4.5	5.8	4.9	5.2	7.4	5.9	5.5	5.2	5.6	5.6
セカンドオピニオンとして参考にするのが難しいと感じるため	5.2	6.2	5.9	5.8	3.8	4.4	4.3	4.2	4.3	4.5	4.0	3.8	4.3	4.1	4.7	6.8	3.0	3.7	3.8	3.8
医学的に信頼できる情報かどうか不安があるため	30.7	35.9	34.8	37.3	18.0	22.2	21.5	24.3	7.2	7.5	4.3	8.3	4.6	6.1	6.8	7.7	6.8	8.7	17.2	20.0
情報の根拠や出典が十分に示されていないと感じるため	17.0	22.9	22.1	27.9	11.3	14.3	13.9	17.3	5.7	5.6	3.6	4.5	3.8	4.5	3.1	5.4	5.7	8.4	9.4	11.4
医師や医療機関の説明と異なる情報が含まれている可能性があると感じるため	14.5	17.0	13.1	16.3	9.1	9.6	9.3	11.7	-	-	5.6	6.7	7.2	7.7	4.9	7.4	5.3	5.7	7.9	9.0
自分や家族の状況に近い情報が見つからないため	7.2	7.2	8.1	8.9	9.2	11.6	7.0	8.5	3.4	4.9	5.1	6.4	6.1	9.1	7.0	12.5	6.8	8.2	6.5	8.7
自分や家族の状況や実際に自分の体感と十分に一致しない／アドバイスがもらえないと感じるため	7.6	8.5	7.8	9.2	8.9	10.7	7.1	8.4	6.8	6.8	5.2	6.4	6.8	9.4	8.8	9.9	6.2	6.4	6.8	8.3
治療や生活について具体的なアドバイスが得られないと感じるため	7.3	6.4	8.6	6.4	7.8	7.3	7.5	7.5	5.4	5.3	6.8	4.9	7.5	5.5	6.3	6.0	5.1	5.3	8.8	7.5
匿名で相談しづらい／できないため	1.8	1.7	3.4	3.7	3.2	4.5	2.8	3.1	4.2	5.6	7.7	7.3	5.2	4.2	4.7	3.1	9.8	7.5	3.7	5.7
人に聞きにくい内容を相談することに抵抗があるため	3.2	4.2	6.4	6.7	7.5	7.5	5.0	5.0	5.8	5.4	7.9	7.0	6.0	5.0	4.4	6.3	10.8	12.1	10.8	11.7
実際の患者やそのご家族の体験談を知ることができないため	3.8	3.5	3.1	3.2	4.4	3.7	3.7	3.7	3.4	3.2	3.6	3.4	3.8	3.2	4.2	5.4	1.7	3.4	3.5	3.5
気持ちや不安を十分に理解してもらえないと感じるため	9.9	8.6	8.0	7.9	7.3	7.3	8.6	8.0	8.4	6.8	7.9	8.7	7.2	5.8	8.6	9.7	6.5	5.0	10.5	8.2
その他	3.4	2.0	2.9	1.2	1.1	0.8	0.8	0.5	1.5	1.1	2.8	1.6	2.0	1.8	1.3	0.9	3.8	1.8	1.1	0.6
特に理由はない	41.7	38.8	40.2	36.0	49.3	43.9	50.6	47.0	51.4	49.2	47.9	46.5	53.9	49.2	59.9	48.0	47.7	49.1	51.0	47.1
回答したくない	2.8	1.9	2.9	2.3	3.8	4.2	4.5	4.6	5.5	5.4	3.0	3.8	3.3	3.1	2.1	2.6	1.8	1.8	4.4	5.1
利便性【計】	17.1	14.0	18.7	18.4	21.8	20.9	18.4	17.9	27.0	29.9	33.2	35.2	26.4	29.4	20.6	27.6	26.4	29.9	15.6	15.0
情報の理解【計】	17.5	18.2	19.7	19.2	18.1	18.0	17.5	16.7	16.5	17.1	13.0	15.6	18.8	19.1	18.2	23.0	12.0	12.6	14.6	13.2
正確性・信頼性【計】	41.8	47.6	46.1	49.2	29.3	32.5	31.9	35.3	11.8	11.8	12.5	15.2	13.1	13.8	13.5	16.8	13.7	16.2	25.0	27.2
個別性【計】	18.2	17.3	20.0	19.0	22.5	23.3	17.8	18.3	13.9	14.3	14.8	14.3	17.5	19.1	17.7	21.6	13.7	14.6	18.8	19.2
心理的サポート【計】	15.5	14.5	17.7	16.8	19.2	18.9	16.8	16.2	18.5	16.8	22.1	20.3	18.0	14.8	17.2	18.8	20.6	22.1	22.5	22.3

## 生成 AI の誤情報を認識しているか

直近 1 年以内にがん治療を受けたがん患者と家族で、生成 AI を利用する対象者への追加質問では、「生成 AI の情報が誤っていると感じた経験率は 66.2%。なかでも「数回ある」が 37.6%、「何度もある」が 23.9%と、過半数を超える結果となった。

また、生成 AI の情報が誤っていると感じた理由について自由回答で尋ねたところ、「質問の仕方を変えると異なる回答が返ってきた」「生成 AI からのアドバイスを試した結果、うまくいかないこともあった」といった声が寄せられた。

生成AIの情報が誤っていると感じた経験  
【ベース：＜がん患者本人＞AI利用者（n=213）】



経験率  
66.2%

生成AIの情報が誤っていると感じた理由  
【ベース：＜がん患者本人＞AI利用者で生成AIによる情報が誤っていると感じた経験がある（n=141）】

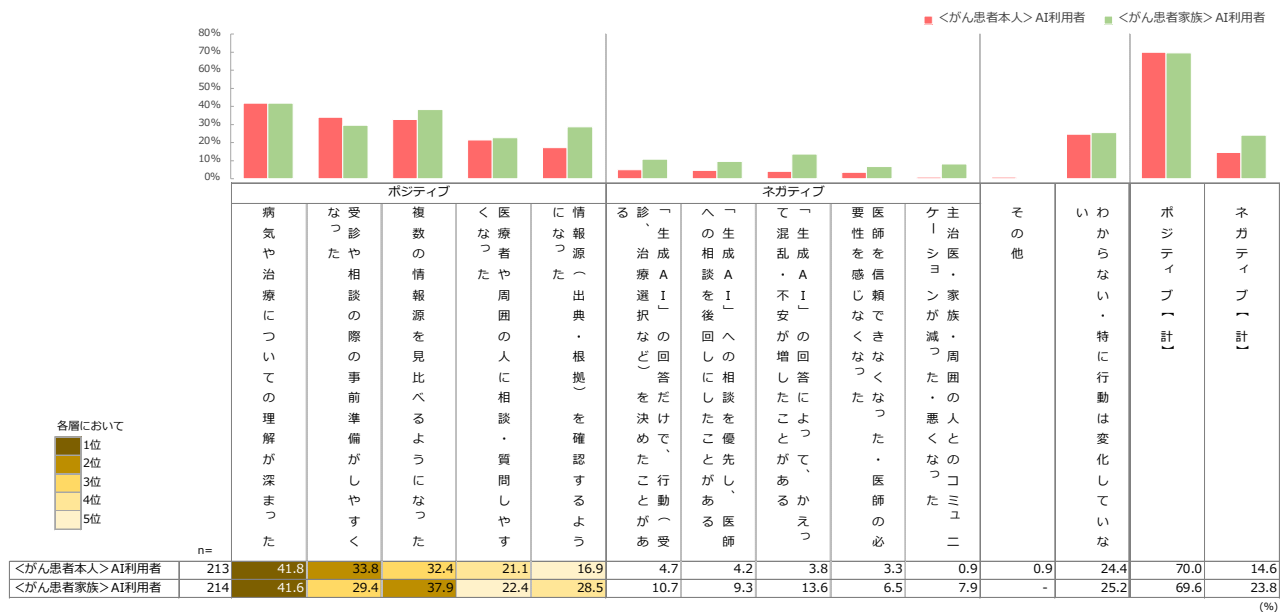


## 生成 AI による行動変容

生成 AI による行動変容では、患者・家族ともに「病気や治療についての理解に深まった」ががん患者・家族とも 4 割程度、「受診や相談の際の事前準備がしやすくなった」が 3 割程度で、計 7 割の患者・家族がポジティブな行動変容ととらえる実態もわかった。

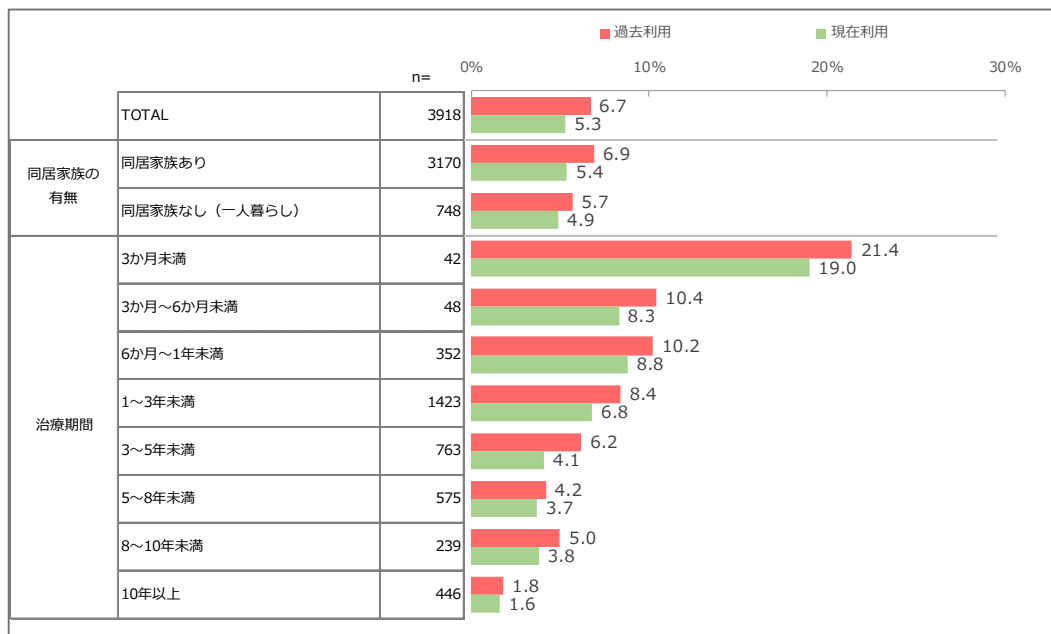
自由回答では、「人に相談しづらかったことを調べて不安が和らいだ」「主治医に対する会話・質問がしやすくなった」「医療者に対して一段踏み込めるようになった」「副作用について調べた後、体調の変化により気付けるようになった」といった前向きな声が寄せられた。

一方で、「知識が増えて逆に混乱した」「医師との話と逆で不安になった」「病院にいけなくなった」といった声もみられ、生成 AI の活用には利便性ととも情報正確性や信頼性に対する懸念もあることがうかがえた。



### 治療期間別の利用状況について

がん患者本人の利用状況を治療期間別で確認すると、今回の調査で「初診」「再発」のがんの区分けはしていないものの、3カ月未満のがん患者本人の利用率が高く、治療期間が短いほど利用率が高くなる傾向がみられた。



## ■まとめ

今回の調査では、がん患者と家族がニーズに応じて相談先を使い分けている状況が浮かんできた。生成 AI と医療従事者への相談理由を比較すると、生成 AI は「すぐに調べられる」「無料で利用できる」といった利便性の面で、医療従事者は「医学的に信頼できる」「具体的なアドバイスが得られる」といった信頼性や専門性の面で、それぞれの強みに期待していることがうかがえた。一方で、「医師の説明と異なる情報に不安を感じた」といった声も数見受けられ、生成 AI はがん患者・家族にとって有用な情報源となる可能性を持つが、活用にあたっては情報の正確性や信頼性に十分な注意が必要であることが示された。

さらに、がん患者本人の生成 AI 利用を治療期間別にみると、治療期間が3カ月未満の患者で利用率が高く、治療期間が短いほど利用経験率が高くなる傾向がみられた。本調査では「初発」「再発」の区別を設けておらず、さらに回答数を増やした調査の必要はあるものの、診断直後や治療初期の「わからないことが多い」段階において、生成 AI が利用されやすい可能性が示唆された。

生成 AI に詳しい慶應義塾大学医学部の宮田裕章教授は「利用率7%程度というのは、がんの罹患年齢を考えても、全体の利用から見れば一見低い数字にも見えるが、がん患者さん、家族が全体のなかで使っているということ自体がかなり重要な状況にある」と話した。また、3カ月未満のがん患者本人の利用率が高い傾向が出たことについては、「サンプル数はまだまだこれからにしても、3カ月は不安を感じ、最初の判断を迷って情報を必要としている時期。AI を利用した初期の判断で、間違った治療方針が強烈にゆがめられ、その結果としてがんが進行して命を失うことすら可能性としてある。ここで、医療政策にかかわる専門家も含めて考えることが改めて重要なフェーズということではないか」と指摘している。

日本対がん協会では、がん患者・家族の生成 AI の利用実態について、今後も継続的に追跡していく予定です。

## ■がん相談ホットラインから

がん相談ホットラインを開設して20年でがん治療は進歩し、患者さんやご家族を取り巻く環境も変化してきました。その中で近年の大きな変化としてあげられるのが、生成 AI の活用です。

がん相談ホットラインでは、生成 AI の回答がすべて正しいわけではなく、自分に当てはまる情報とは限らないことを伝えて、治療や病状に関わる医学的なことは担当医に確認することが大切だと話をします。ただ、担当医とのコミュニケーションに問題があって、AI を利用している人も少なくありません。その際は、どのようにしたらその人が担当医に質問できるようになるかを一緒に考え、相談内容によっては、担当医以外の適切な相談先もお伝えしています。

今後ますます AI は進化し、誰もが当たり前のように利用する世の中になっていくことが予想されます。それでも私たち相談員は、人と人が対話を重ねて心を通わせることが、その人の心の回復や元々持っている力を引き出すことにつながっていくことを実感しています。